

令和2年度

(令和2年4月～令和3年3月事業分)

南阿蘇村教育に関する事務の管理及び
執行の状況の点検及び評価報告書



令和3年9月

南阿蘇村教育委員会

目 次

(項 目)	(頁)
1 概要	(1)
2 点検・評価の対象	(1)
3 点検・評価の方法	(1)
4 点検・評価の基準	(1)
5 点検評価委員会議及び意見	(2)
6 議会への報告	(2)
点検評価の流れ	(3)
点検・評価表	(4) ～ (13)
点検評価委員の意見	(14)

1 概要

この報告書は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定に基づき、令和2年度に実施した教育委員会の事務・事業について点検評価委員が点検及び評価を行い、意見を付して議会に報告書を提出するものです。

2 点検・評価の対象

点検・評価の対象は、令和2年度南阿蘇村教育委員会の所管事務・事業です。

3 点検・評価の方法

(1) 点検評価表

点検評価表は、南阿蘇村教育委員会が毎年その権限に属する事務・事業の実践事項を評価項目として作成しています。

(2) 点検評価委員の委嘱

点検・評価の客観性を確保するため、有識者2名を南阿蘇村教育委員会点検評価委員として委嘱し、教育委員会所管事務・事業を説明する機会を設け、外部評価及びご意見、ご助言を戴きました。

【点検評価委員】

氏名：合志 正輝 役職：学校教育指導員

氏名：北 誠一郎 役職：学校教育指導員

4 点検・評価の基準

点検・評価の基準は、実現度を次のAからDの4段階としています。

- A・・・十分達成 (90%以上)
- B・・・概ね達成 (70%以上90%未満)
- C・・・やや不十分 (50%以上70%未満)
- D・・・不十分 (50%未満)

5 点検評価委員会議及び意見

点検評価委員は南阿蘇村教育委員会に関する事務の管理及び執行状況について、南阿蘇村教育委員会からの説明を受け、関係書類等を審査し、総合的な意見を述べるようになっていきます。

実施日：令和3年8月31日（火） ※点検・評価
令和3年9月 2日（木）・3日（金） ※報告書作成
場 所：南阿蘇村役場1階 小会議室
※14ページに意見書を添付

6 議会への報告

議会への報告については、毎年9月議会定例会に前年度の教育施策の執行状況についての点検・評価の結果を報告します。

【参考】

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

点検評価の流れ

南阿蘇村の教育方針



計画に基づく各事務・事業の実施



自己の点検・評価



点検評価委員による点検・評価



報告書の作成

議会への報告・公表

令和2年度 南阿蘇村教育委員会点検・評価表

【評価基準】 A・・・十分達成（90%以上） B・・・概ね達成（70%以上90未満） C・・・やや不十分（50%以上70%未満） D・・・不十分（50%未満）

大項目	中項目	事業名	自己点検コメント	達成率	自己評価	評価委員コメント	評価委員評価
1 学校教育の充実	① 教育内容の充実	1 南阿蘇村放課後英数教室	学校・講師との協議を交えながら日程調整や指導内容の検討などを行い、内容・結果ともに充実したものとなった。また、ほとんどの生徒が希望する進路に進むことができたため、生徒の進路実現に大きく寄与することができた。	90%	A	各教科担当講師・学校・教育委員会が連動し、生徒の意向を尊重しながらの対応で、生徒の進路実現にしっかりと寄与できている。	A
		2 特別支援教育支援員等の配置	支援員を配置することで、支援が必要な児童・生徒に対し細やかな対応ができるとともに、担任等と連携することで効果的な授業等の運営につながっている。複式学級を含め通常学級においても、より細やかな学習支援を行うことができた。また、コロナ禍ではあったが、特別支援教育に係る研修会も延期して実施することができ支援員としての資質向上にも寄与できた。	90%	A	コロナ禍の中、支援員の資質向上を目的とする研修は当初の計画を延期しての実施とはなったが、日々の教育実践を基に、更に個々の教育的ニーズに丁寧に対応することができている。	A
		3 英語検定料の補助	英検の受検機会を増やすことで、英語学習の機会を増やすことができた。また、中学3年生については、第2回（10月試験）・第3回（1月試験）と受検できる機会を増やした。今後も、中学3年生で英検3級以上の取得者を増やし、県が掲げている目標を達成できるよう支援していきたい。	90%	A	小学校5・6年からの外国語教科化に伴い取り組み始めた小学校5年生からの英語検定受検経験は、回を重ねながら中3段階で英検3級取得という具体的な目標に向かう意識を高め、教育効果も上がっている。	A
		4 中学校部活動指導員の配置	中学校からの要望どおり2名の部活動指導員を配置することができた。教職員が行う顧問同様、直接的な技術指導並びに大会等への引率が可能となり、事業の目的にあるとおり、配置ができた部活動については、更なる指導体制の充実と、担当教職員の負担軽減を図ることができた。	90%	A	配置した2名は、技術指導だけでなく、生徒指導に関することも指導可能であり、指導体制の充実とともに担当教職員の負担軽減にも具体的な効果が上がっている。	A

令和2年度 南阿蘇村教育委員会点検・評価表

【評価基準】 A・・・十分達成（90%以上） B・・・概ね達成（70%以上90未満） C・・・やや不十分（50%以上70%未満） D・・・不十分（50%未満）

大項目	中項目	事業名	自己点検コメント	達成率	自己評価	評価委員コメント	評価委員評価
1 学校教育の充実	② 教育環境・学校施設の整備	5 情報教育の推進	令和5年度までにGIGAスクール構想に伴う環境整備を行う予定だったが、コロナ禍のため国の政策として事業を前倒しし令和2年度中に取り組むこととなり6月補正で予算を確保した。全国的な事業であるため事業者の確保が懸念されたが、本村はスムーズに導入することができた。10月には小中学校でタブレットPCを活用できる環境が整い、2月には家庭へタブレットPCを持ち帰り、活用できる環境が整った。また、電子黒板も遠隔授業等に耐えられるよう、液晶の電子黒板に更新することができ、教育現場におけるICT環境整備を一気に進めることができた。	100%	A	GIGAスクール構想の前倒し実施となったが、以前から見通しや具体的な準備・検討が奏功し、年度内に大規模な改善整備を果たすことができています。特に、高速通信網の整備、タブレットPCの導入、その他のICT機器の改善等も実現した。	A
		6 学校施設の整備	令和2年度に予定していた統合白水小学校大規模改修を始めとする整備事業については、全て年度内に完了した。統合した白水小学校で使用するスクールバスの車庫は、後に必要と判断したが、年度内は周辺工事と交錯するため、工事費入札残の予算を繰越し、令和3年度に車庫を新築する。	90%	A	6事業のうち統合白水統合小学校関連の大きなものも年度内に完了することができた。残されたSB車庫に関しては、予定通り次年度に整備計画されている。	A
	③ 道徳教育の推進	7 道徳教育の推進	「特別の教科道徳」についての指導方法と評価方法の工夫・改善のために、各学校は村教育研究会の道徳部会を牽引役として真摯に取り組んでいる。また、学校教育指導員による参観授業においても道徳科の授業改善に向けた指導に取り組んでいる。	70%	B	学校での学習内容が、日常生活の中で発揮され互いを高め合うように根気よい取組を継続的に重ねられている。	B

令和2年度 南阿蘇村教育委員会点検・評価表

【評価基準】 A・・・十分達成（90%以上） B・・・概ね達成（70%以上90未満） C・・・やや不十分（50%以上70%未満） D・・・不十分（50%未満）

大項目	中項目	事業名	自己点検コメント	達成率	自己評価	評価委員コメント	評価委員評価
1 学校教育の充実	④ グローバル人材育成の推進	8 小学校英語講師・中学校ALTの配置	小学校低学年から英語活動を行うことにより英語の音に慣れ親しみ、コミュニケーションに対する関心・意欲を育てることができた。また、教科化となった小学校英語から中学校英語にスムーズに移行できるよう取り組むとともに、中学校の授業では、ALTとのコミュニケーションを重要視した授業などが行なわれ英語力の向上が図られており、中学卒業時に英検3級を取得した卒業生の割合は約40%となっており成果が出て来ていると考えられる。	90%	A	小学校外国語活動や外国語科の授業充実に加え、中学校外国語科（英語）の授業がさらに会話を重視した学習活動の充実によりALT等が大いに貢献している。また、英検3級取得の目標値実現に具体的に寄与している。	A
	⑤ コミュニティ・スクールの支援	9 小・中学校コミュニティ・スクール（学校運営協議会）の設置	新型コロナウイルスの影響で、予定していた活動が十分に実施できなかったが、その時期は対処方法等がまだ確立されていないため致し方ないと考ええる。白水地区3小学校が統合した後の、白水小学校で学校運営協議会が設置されれば、村内全ての小中学校に設置が完了するため、その準備ができたことは大変良かったと感じている。	70%	B	コロナ禍の中、内容・回数等について計画を変更しての実施となったが、その機能と役割は概ね果たしていると判断することができる。また、統合小学校の開校に伴う同校学校運営協議会設置に向けた丁寧な準備がなされている。	B
	⑥ 地域学校協働本部の設置	10 地域学校協働本部の設置	学校単位で、すでに地域学校協働活動は行われている中で、本部を立ち上げ、体制を構築していくには、調整・まとめ役を必要とした。令和2年度は、その人材を確保するのが難しく、また、どの活動をどのように関わっていくのかなどの把握が不十分な状況ではあったが、各学校の体制構築に向け動き、推進のための本部を設置することができた。	90%	A	南阿蘇中学校をモデルとした具体的実践研究により、成果と課題が明らかとなり、今後各学校の地域学校協働活動がさらに充実するようコーディネート担当者との連携も着実に進んでいる。	A
	⑦ 阿蘇ジオパーク登録による学習支援	11 阿蘇ジオパーク登録による学習支援	各学校において、阿蘇ジオパークに関する学習機会が設けてあり、阿蘇ジオパークに目を向ける取り組み等が実施されている。新型コロナウイルスの影響により、思うように現地学習などができない状況があるが、コロナ禍の影響を鑑み、今後はオンラインを活用した授業などに支援を行う必要がある。	80%	B	地理的特徴を生かした学習活動が各学校とも地域巡検を取り入れるなど工夫を凝らしながら取り組まれている。その学習活動実施のために、様々な要望等に真摯に応え支援している。	B

令和2年度 南阿蘇村教育委員会点検・評価表

【評価基準】 A・・・十分達成（90%以上） B・・・概ね達成（70%以上90未満） C・・・やや不十分（50%以上70%未満） D・・・不十分（50%未満）

大項目	中項目	事業名	自己点検コメント	達成率	自己評価	評価委員コメント	評価委員評価
1 学校教育の充実	⑧ 再生可能エネルギーの学習	1.2 再生可能エネルギーの学習	各学校において、各授業の中で再生可能エネルギーに関する学習機会が設けてあり、環境問題との関係性や阿蘇地方で行われている取組などを学ぶ機会となっている。今後は、村でも行われている小水力発電事業や事業開始が予定されている地熱発電などが各学校の学習に活用できるよう支援して行く必要がある。	80%	B	各学校では、再生可能エネルギーに関わる学習内容を洗い出し、各教科、総合的な学習の時間等を、意図的に関連させながら授業実践がなされている。	B
	⑨ 湧水生態系保全の学習	1.3 湧水生態系保全の学習	各学校において、各授業の中で阿蘇の湧水・生態系に関する学習機会が設けてあり、学校だけでなく、湧水や生態系にかかわりのあるゲストティーチャーを招くなどして児童が興味を持つような取組が行われていた。阿蘇のみならず水俣などでの環境を学習する機会を継続して確保するとともに、コロナ禍に対応した学習機会の確保を進めて行く必要がある。	80%	B	湧水群をはじめ豊かな水資源を有する本村の大きな特徴を、総合的に学習する学習活動を進展させるよう各学校からの要請に丁寧に対応しようとしている。	B
2 社会教育の推進	① 生涯学習講座の開催	1.4 高齢者学級の開催	年6回の高齢者学級を計画していたが、新型コロナウイルス感染症予防対策のため、事業を中止とした。この事業を中止したことは、特に高齢者の新型コロナウイルス感染症への危機意識を高め、感染症拡大防止が図られたと思われる。また学級の代替えとして、笑いや体操等のDVDを購入し、公民館活動等少人数で集まった際に貸出が行えるよう準備を行った。	70%	B	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策の一環として、6回計画した講座を全て中止とした。そこで、DVDの購入や少人数の活動時に利用可能な代替え等をいろいろ検討し再開したときのための準備を行っている。	B
		1.5 一般住民向けスキルアップ講座の実施	令和2年度は、「スマートフォン・タブレット入門講座&はじめてのiPhone・iPad講座」を開催。今回の講座により、android所有者の参加希望が多くあることがわかった。今後の講座を検討するうえで参考としていきたい。参加者の満足度は高いが、定員に達していない点において、費用対効果等を考えると、達成率は80%とした。	80%	B	所持するスマートフォン等通信端末の数の違いが明らかとなったので、今後の取組に生かす必要はあるが、開催した講座については参加者の満足度が高かったため概ね成果は上がっている。	B

令和2年度 南阿蘇村教育委員会点検・評価表

【評価基準】 A・・・十分達成（90%以上） B・・・概ね達成（70%以上90未満） C・・・やや不十分（50%以上70%未満） D・・・不十分（50%未満）

大項目	中項目	事業名	自己点検コメント	達成率	自己評価	評価委員コメント	評価委員評価
2 社会教育の推進	② 生涯学習関連施設の整備	16 公民館の整備	平成28年熊本地震被災自治公民館施設等再建支援事業補助 2件 ニーズに対し、100%応えることができている。また、起債、熊本県復興基金を利用することで、村の持ち出しは少なくなっている。 自治公民館建設費補助 7件 地元の拠り所である公民館を改修することで、行事等を快適に行うことができ地域のつながりを維持する活動に寄与している。	100%	A	熊本地震被災等再建支援事業補助を有効活用し、要望のあった2件については被災前の状態にすっかり再建できている。	A
		17 南阿蘇村図書室の整備	図書室開室に向け、旧図書室（既存図書）の整理、新規図書の選書・購入、図書配架、図書システム・検索システムの導入、電子図書の導入、オリジナル読書手帖の作成、スタッフの確保など令和3年4月23日のオープンに向け、ほぼ予定通り準備を進めることができた。	90%	A	既存図書整理、新規図書の選定・購入、図書配架、図書管理システム、電子図書の導入等の準備とともに運営体制の整備について十分な準備が完了している。	A
	③ 国内外との交流	18 姉妹町村交流 上天草市との連携事業	新上五島町の子ども会との交流キャンプは、事前研修などを6月に行い新上五島町とも何度も話し合いを行って、事業が実施できるよう模索してきたが新型コロナ感染拡大のため中止とした。上天草市との交流事業は、事業のすり合わせを行い、体育協会の競技種目同士の交流とする方向を決めたが、新型コロナ感染拡大のため中止とした。	70%	B	新上五島町で開催予定の交流キャンプ等は、残念ながら新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止となった。ただ、姉妹町村担当者等と共有されたように、この状況が解消すればこれまでのノウハウ等を生かしてほしい。	B

令和2年度 南阿蘇村教育委員会点検・評価表

【評価基準】 A・・・十分達成（90%以上） B・・・概ね達成（70%以上90未満） C・・・やや不十分（50%以上70%未満） D・・・不十分（50%未満）

大項目	中項目	事業名	自己点検コメント	達成率	自己評価	評価委員コメント	評価委員評価
2 社会教育の推進	④ 各種団体活動の支援	19 社会教育関係団体への支援	今年度は、新型コロナウイルスの影響で補助金の申請団体は減少傾向であった。しかし、公民館等の利用率は低下はしていないため、各団体の活動はそれぞれ行われていたものの、コロナ禍による対外的な活動の自粛や文化祭等での発表の場がなかったことが補助金申請の減少原因と考える。	70%	B	コロナ禍にあって通常通りの活動ができなくなり、各団体は活動を縮小したり自粛したりするなど検討され、補助金申請を辞退されるところが多かった。その意をしっかりと受け止め今後につなげなければならない。	B
3 健全で心豊かな子どもの育成	① 放課後子ども教室の開催	20 放課後子ども教室の開催	新型コロナウイルス感染症予防のため、今年度は外部講師については制限をかけ、参加者全員が感染症予防に努めながら、プログラムにも工夫を凝らし、指導員の協力のもと教室を開催することができた。	90%	A	コロナ禍にあって内容を変更したり個々に必要な対策を講じることで、窮屈な中ではあったが、所期の目標は達成することができている。	A
	② 体験活動の開催及び支援	21 子ども会活動・体験活動の充実	新型コロナの影響で多くの事業が中止となり、予定していた新上五島町との交流キャンプや熊本県子ども会大会等も感染予防のため実施ができなかった。このような状況下であったが、新上五島町交流キャンプ事前研修であるジュニアリーダー宿泊研修については、ハイキング等の活動を行い、新型コロナウイルス感染症予防のため多くの活動を制限されていた子供たちの活動の場として寄与できたのではないかと考える。	70%	B	交流キャンプ等体験活動を中心とする内容の事業は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止せざるを得なかった。ただ、野外活動中心のジュニアリーダー研修だけは、開催することができてよかった。	B
	③ いじめ問題・不登校の未然防止や解決に向けての指導体制支援	22 いじめ問題・不登校の未然防止や解決に向けての指導体制支援	毎月の校長会議・定例報告等で状況の共有は密に図られており、今後の継続的な指導、支援につながった。不登校児童生徒に対しては教育支援センターが中心となり、学校と家庭との橋渡しをする機関として今後も継続的な対策を行う。	80%	B	いじめ問題対策連絡協議会や教育支援センター連絡協議会の存在等を踏まえ指導体制が充実していることを実感する各学校の担当者は、連携を意識し、個々の事案に丁寧に対応しようとしている。	B

令和2年度 南阿蘇村教育委員会点検・評価表

【評価基準】 A・・・十分達成（90%以上） B・・・概ね達成（70%以上90未満） C・・・やや不十分（50%以上70%未満） D・・・不十分（50%未満）

大項目	中項目	事業名	自己点検コメント	達成率	自己評価	評価委員コメント	評価委員評価
3 健全で心豊かな子どもの育成	④ 情報モラル教育の推進	23 情報モラル教育の推進	各学校において、各授業の中で情報モラルに関して学ぶ機会が設けてあり、児童・生徒のみならず、情報機器・インターネット等のトラブルや活用方法について、教職員の研修や保護者への啓発なども積極的に行われている。今後も学校への情報提供や研修の支援、情報機器の管理等を通じ、情報モラル教育に積極的に関わっていく必要がある。	80%	B	各学校での指導がやりやすいように担当者の意見を尊重しながらタブレットPCの使用上の約束事を規定することができたことがよかった。	B
4 人権教育の推進	① 子ども会学習会の開催	24 子ども会学習会の実施	学習会では教科学習や人権学習等を行った。近年では、地域の方々との交流会を通じて、ふるさと学習を行い人権教育をより深く学んでいる。ふるさとを知り、誇りに思うことが、差別をなくす第一歩となる。新型コロナ感染症予防のため、水俣市との交流は出来なかったが、コロナ禍の中で可能な限りの活動を行うことができたことは子どもたちにとっても良い経験をする機会になった。	80%	B	コロナ禍の状況にあって、水俣現地学習等、3つの学習機会は中止となってしまったが、通常の子ども会学習会は、万全な対策を講じながら継続的に開催され個々の学習を深めることができていた。	B
	② 人権教育・啓発活動の推進	25 人権フェスティバル講演会の開催・人権教育研修会等への参加	新型コロナ感染症予防のため、令和2年度の南阿蘇村文化祭及び人権フェスティバルの開催が中止となったが、人権啓発カレンダーや葉の配布をすることで、人権問題が身近な問題であることを再認識できた。また、図書室に設置した葉を村民の方々が自発的に手に取ることで、差別のない明るい村の実現へ一歩近づいたと思われる。	80%	B	多くの参加者を予定した講演会等の研修の機会は残念ながら中止せざるを得なかったが、人権啓発カレンダーをはじめ様々な啓発用グッズを工夫しながら村民に届けることができていた。	B
5 地域文化の振興	① 伝統文化の保存と活用	26 伝統芸能保存団体等への支援	新型コロナウイルス感染症の影響が大きく伝統芸能団体の活動が大きく制限される中、南阿蘇太鼓保存会については各種イベントの参加を行い一定の成果を上げることができたと思われる。しかし新型コロナウイルス感染症の影響を受けているその他の団体に対し今後どのような支援ができるか検討する必要がある。	80%	B	補助を予定していた団体の中で、このコロナ禍の中の活動内容を検討し申請を辞退された団体があったが、その意思をしっかり受け止め今後につなげていかなければならない。	B

令和2年度 南阿蘇村教育委員会点検・評価表

【評価基準】 A・・・十分達成（90%以上） B・・・概ね達成（70%以上90未満） C・・・やや不十分（50%以上70%未満） D・・・不十分（50%未満）

大項目	中項目	事業名	自己点検コメント	達成率	自己評価	評価委員コメント	評価委員評価
5 地域文化の振興	② 文化・芸術鑑賞会等への支援	27 文化・芸術鑑賞会等への支援	白水地区3小学校にて「いきいき芸術体験教室」を毎年実施しており、実施のための委託料については村で予算化していたが、新型コロナの影響で事業自体が中止となり実施できなかった。アートイベントについては、全小学校が参加し、アートを通じた地域振興の一役を担うことができた。	70%	B	国や県の働き掛けも有り、開催に向けて丁寧な準備はなされていたが、新型コロナ感染症拡大防止対策の一環として中止となってしまったことは残念である。	B
	③ 文化財の活用・保護・整備	28 文化財（コミュニティ施設等）の再建・整備	平成28年熊本地震被災コミュニティ施設等再建支援事業補助 3件 各地域のニーズに対して、100%対応することができている。熊本県復興基金を利用することで、村の持ち出しは少なくなっている。熊本地震から5年が経過し徐々に申請は減ってきている。	100%	A	熊本地震に起因するコミュニティ施設等は申請された3件については全て完了することができた。	A
		29 文化財の保護	新型コロナ感染症の影響により無形文化財である神楽が大きな影響を受けた。そのような中、新たに中松の正教寺を村指定文化財に指定できたことで南阿蘇村の持つ文化の追求に進展が見られたと思われる。 世界文化遺産登録推進に関しては、保存部会と専門部会で会議を行い阿蘇の魅力を更にミクロの視点で追求することが出来たため、暫定リスト登録への足掛かりとなったと思われる。	100%	A	・文化財の保護等については、新たに「正教寺」が文化財として指定されたことがよかった。	A
6 スポーツの推進	① 南阿蘇村体育協会及びNPO法人クラブ南阿蘇の活動支援	30 南阿蘇村体育協会事業	体育協会の活動として、新型コロナ感染拡大予防のため計画していた事業がほとんど中止となった。しかしながら各種目の競技会は感染対策を十分行いながら活動を行うことができた。	70%	B	新型コロナ感染症防止対策のため大勢が集合して行う事業については全て中止となったが、各種目とも普段の競技活動・研修活動は感染症対策を講じながら、粛々と続けられている。	B

令和2年度 南阿蘇村教育委員会点検・評価表

【評価基準】 A・・・十分達成（90%以上） B・・・概ね達成（70%以上90未満） C・・・やや不十分（50%以上70%未満） D・・・不十分（50%未満）

大項目	中項目	事業名	自己点検コメント	達成率	自己評価	評価委員コメント	評価委員評価
6 スポーツの推進	① 南阿蘇村体育協会及びNPO法人クラブ南阿蘇の活動支援	3.1 南阿蘇村生涯学習支援クラブ「NPO法人クラブ南阿蘇」の支援	クラブ南阿蘇は、総合型スポーツクラブ、生涯学習、児童放課後活動きらめきクラブを中心に多くの活動を行っており、令和元年度以降、児童放課後活動きらめきクラブは小学校部活動社会体育移行の受け皿として活動を行っており、多く児童が参加している。しかし2月末から新型コロナの影響によりほとんどの活動が停止を余儀なくされ、9月までは活動ができなかった。	90%	A	コロナ禍の状況をしっかり見極めて可能な場合は対策を講じて活動を実施し、参加者等の文化・スポーツ活動の伸長に寄与することができていた。	A
	② スポーツイベントの開催	3.2 各種スポーツイベントの実施	村民球技大会については、新型コロナ感染拡大防止のため中止とした。太極柔力球教室も26名の参加者が8回の講座を受講され、健康増進につなげることができた。SAQトレーニングについては、延べ265名の参加があり、スポーツの基礎となる、走ることを中心にバランス感覚を習得するためのトレーニングを行った。スキー教室、南阿蘇鉄道復興友好駅伝についても、準備は行っていたが新型コロナ感染拡大防止のため中止となった。	90%	A	SAQトレーニングをはじめ参加者の満足度が高い事業は実施することはできたが、スキー教室や友好駅伝大会等はコロナ禍により中止せざるを得なかったことが残念であった。	A
	③ スポーツ指導者の育成、施設整備	3.3 南阿蘇スポーツ推進委員事業	各種大会研修会が新型コロナ感染拡大防止のため中止されたが、感染状況を見ながら12月の研修会は開催することができ、スポーツ推進委員のスキルアップにも寄与することができた。	70%	B	村民のスポーツ文化を牽引するスポーツ推進委員が直接関わる事業の殆どが、新型コロナ感染症防止のため中止せざるを得なかったことが残念であった。	B
		3.4 スポーツ指導者研修会・講習会の開催	SAQトレーニングは、様々なスポーツの基礎となる動きづくりで、これからスポーツを取り組む子どもたちが学ぶことで、走る方法や飛ぶ方法などの動きを理解できるものと思われる。また、その内容は、指導者が理解することで様々なシーンで役立つものとなっている。	100%	A	コロナ禍ではあったが、予定した9回のうち5回が実施することができ様々なスポーツの基本的な動きについて体験的に学び取ることができた。	A

令和2年度 南阿蘇村教育委員会点検・評価表

【評価基準】 A・・・十分達成（90%以上） B・・・概ね達成（70%以上90未満） C・・・やや不十分（50%以上70%未満） D・・・不十分（50%未満）

大項目	中項目	事業名	自己点検コメント	達成率	自己評価	評価委員コメント	評価委員評価
6 スポーツの推進	スポーツ指導者③の育成、施設整備	35 施設の整備・活用	白水第2体育館非構造部材改修工事の改修中に雨漏りが発見され、予定の工期を延長し、さらに9月補正で屋根改修工事を追加した。年度途中の追加工事であったが4月の統合白水小学校の開校までに竣工できた。	100%	A	次年度4月開校の統合小学校の体育館施設としての改修工事途中に発見された屋根の改修工事にも、素早く対応し、年度内に全ての工事が完了することができた。	A
7 防災教育の推進	防災教育・避難訓練の実施、自ら命を守る力を身に付ける教育の推進①	36 防災教育・避難訓練の実施、自ら命を守る力を身に付ける教育の推進	各学校において、身近に起きた大災害を教訓に避難訓練等の積極的な実施や防災について学習する機会が設けてある。特に、中学校は実践的な避難所運営訓練などを積極的に実施しており、今後も継続的に防災への関心を高めることができるよう、情報提供や訓練・研修機会の確保など、行政としても積極的に支援して行く必要がある。	90%	A	各学校は、心的ストレスに配慮しながら、組織的・計画的な避難訓練、防災教育を実施するとともに、中学校生徒の主体性を生かした避難所運営訓練など着実に自らの命を守る力の育成に奏功している。	A

点検評価委員の意見

令和2年度の南阿蘇村教育に関する事務の管理及び執行状況について、南阿蘇村教育委員会担当者から説明を受け、関係文書及び諸報告書を審査し、更に質疑を重ねて総合的に検討した結果、下記のとおり意見をまとめた。

記

- 1 令和2年度の南阿蘇村教育に関する事務の管理及び執行の状況については、新阿蘇大橋の完成・開通に代表されるとおり熊本地震からの復旧が進み、ほぼ地震前と同等までに回復している。しかし、前年度末から猛威を振るい始めた新型コロナウイルスによる感染症拡大防止対策のため、学校教育、社会教育及び教育関係諸施設を含めあらゆる事業・業務は当初の計画通りには進展せず、状況をつぶさに勘案しながら万全な対策を検討し、慎重に対処して多くの取組は実施された。ただ、中には中止を余儀なくされた事業も多くあり、個々の事業目標は完全に達成されることが難しい中であっても、懸命に遂行されていた。
- 2 今回は、令和2年4月に改訂された「第2次南阿蘇村教育大綱」（令和2年度～令和6年度までの5年間）に基づき、数多くある南阿蘇村教育に関する事務及び管理項目の中から、7つの基本方針ごとに36事業を評価対象に選定し点検、評価を実施した。その多くは、当初の事業目的・内容の概要説明後、新型コロナウイルス感染防止対策を中心に事業の実際について各担当者から直接説明を受け、質疑を通して事務の管理及び執行状況、目的達成状況等について各々点検評価を行った。
- 3 点検結果は、別紙のとおり各事業の目的達成に向け最大限工夫を凝らし、コロナ禍の状況の下で必要な対策を講じながら業務を準備・遂行し、概ね所期目標は達成したものと判断できるといえる。
- 4 今後の村教育に関する事務の管理及び業務遂行に関して評価委員としての気付きを以下に示させていただく。
 - ① 統合白水小学校の開校に向けて、校舎改修に関する大きな事業等がほぼ計画通り進行し、滞りなく令和3年4月の開校を実現した。今後、この校舎で豊かな教育活動が展開され充実した教育成果を上げられるよう必要な教育内容面への支援策を意図的・計画的に講じていただきたい。また、GIGAスクール構想の前倒しによる村内小中学校の大幅なICT機器の整備と充実策にも遅延なく取り組まれ、全児童生徒にタブレットPCを配布することも成されている。各学校では、これらを大いに活用し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に積極的に取り組んでいただきたい。
 - ② 各種事業遂行に関しては、村内にある関係機関や諸団体、あるいは村が委託したコーディネータ等との連携の充実が不可欠であるが、今回、新型コロナウイルス感染拡大防止策として中止を余儀なくされた事業の関係者と事業対象者

に対しては、その判断への理解と協力への感謝を忘れず、今の状況が改善・克服されたときには、元通り充実した事業内容で再び実施できるよう特段の配慮が必要である。

- ③ 数値目標等、事業目標達成状況を吟味するのに有効な指標となる評価規準を予め具体的に設定し、点検評価委員のみならず事業によっては実施主体となる各学校にも必要に応じて共有しておいていただきたい。

以上

令和3年9月9日

南阿蘇村点検評価委員

氏名 合志 正輝 印

氏名 北 誠一郎 印

(原本へ押印)